

〔明治二十二年〕

〔・特別認可私立英吉利法律学校を東京法学
院と改称認可 他

特別認可学校 明治二十二年九月九日告示第十六号ヲ以テ明治二十一年省令第三号特別認可学校規則ニ依リ同年八月及ヒ九月學則ヲ認可シタル私立東京仏学校ト私立東京法学校ト合併シ和仏法律学校ト称スルニ付更ニ同規則ニ依リ其學則ヲ認可スルコトヲ示ス

十月三日特別認可私立英吉利法律学校ヲ東京法学院ト改称スルコトヲ認可ス

明治二十三年三月二十五日省令第一号ヲ以テ明治二十一年省令第三号特別認可学校規則ヲ改正シ特別認可学校生徒ノ入学試験ハ高等中学校ニ於テ施行スルコト、ナシ其手續ヲ定ム中学校ノ学科程度ト同等以上ノ学校 明治二十二年五月六日訓令第一号ヲ以テ明治二十二年法律第一号徴兵令第十一条中学校ノ学科程度ト同等以上ト認ムヘキ学校ハ其市町村立ニ係ルモノハ左ノ第一項及ヒ第二項ニ該当シ私立ニ係ルモノハ左ノ各項ニ該当スルヲ要スルヲ以テ該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟申スヘキ旨ヲ道府県ニ令ス即チ第一普通学校ニ在リテハ中学校ノ成規ニ準拠シタルモノタルヘク農商工等ノ実業学校ニ在リテハ入学生徒ハ高等小学校卒業ノ者若クハ之ニ均シキ学力ヲ有スルモノニシテ三箇年以上ノ学科課程ヲ具フルモノヲ

ルヘク其他専門学校ニ在リテハ入学生徒ハ尋常中学卒業ノ者若クハ概子尋常中学校ノ程度ニ拠リ相当ナル予備ノ学科ヲ修メタル者ニシテ三箇年以上ノ学科課程ヲ具フルモノタルヘキ事第二所定ノ学科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員及ヒ校舎器具地所等ヲ具備スル事第三学校及教員任免ノ方法一定確實ナル事第四授業料束脩等ノ如キ予メ確定シ難キ収入金ヲ除キ毎年ノ費金中二千四百円以上ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事第五設置以來三箇年ヲ経テ相当ノ成績アルモノタルヘキ事ノ五項ナリ

明治二十二年中告示第三号第六号第七号第八号第九号第十号第十二号第十三号第十四号第十五号第十七号第十八号第十九号第二十号第二十一号ヲ以テ京都府府立京都府医学学校同京都府府立京都府画学校大坂府府立大坂医学学校同大坂商業学校同農学校愛知県県立愛知医学校同名古屋商業学校宮城県立宮城農業学校兵庫県立神戸商業学校長崎県北松浦郡平戸村私立猶興館同長崎市市立長崎商業学校新潟県立新潟農学校石川県立石川県工業学校同石川県農学校滋賀県立滋賀商業学校東京府東京市牛込区加賀町私立成城学校(幼年学科ヲ除ク)ヲ明治二十二年法律第一号徴兵令第十一条ニ依リ中学校ノ学科程度ト同等以上ト認ムル旨ヲ示ス

明治二十三年二月六日告示第二号ヲ以テ大坂府大坂市市立大坂商業学校ヲ曩ニ府立ノ際明治二十二年法律第一号徴兵令第十一条ニ依リ中学校ノ学科程度ト同等以上ノモノト認ムル旨ヲ告示シ置キタル処今般市立ト變更シタルモ引続キ認定シタル旨ヲ示シ三月二十五日告示第三号ヲ以テ北海道庁立函館商業学校ヲ

同ク中学校ノ学科程度ト同等以上ノモノト認ムル旨ヲ示ス

(中略)

庶務

明治二十二年一月十六日仏国大博覧会出品目録ヲ更正シテ農商務省ニ通報シ且ツ出品出陳方ヲ起立工商会社ニ委託ス 十七日直轄学校(高等師範学校、山口鹿兒島両高等中学校及ヒ東京盲啞学校ヲ除ク) 授業料入学試験料ノ額ヲ定メテ之ヲ訓令セリ今其要ヲ挙クレハ現在授業料ノ月額ヲ年額ニ改メ毎年金五円ヲ通加シ帝国大学ノ各分科大学ハ十五箇年ニシテ百円ニ至リ高等商業学校ノ本科ハ九箇年ニシテ七十円ニ至リ同予科及ヒ高等中学校ノ本科医学部東京高等女学校ハ六箇年ニシテ五十円ニ至リ高等中学校ノ予科東京職工学校、東京美術学校、東京音楽学校ハ四箇年ニシテ三十円ニ至リ高等中学校ニ補充科ヲ置ク場合ニハ其授業料ハ予科ニ準シ在地方ノ高等中学校ニシテ其設備未タ全カラサルモノハ文部大臣ノ裁定ヲ經テ当分其幾分ヲ減スルコト、シ又其入学試験料ハ大学院ハ三十円分科大学ハ五円高等商業学校ノ本科高等中学校ノ本科医学部東京高等女学校ハ三円其他ハ二円マテ二箇年乃至五箇年ヲ歴テ通加スルコト、シ二十二年学年ノ初ヨリ之ヲ施行スルコト、セリ 十八日文部大臣ヨリ示諭ノ次第有之ニ付来二月五日ヲ期シ学務課長ヲ出頭セシムヘキ旨総務局長ヲシテ道府県ニ照会セシム 二十九日独国官費留学生穂積八束帰朝ス 三十一日外務大臣ヨリ本年九月二日ス

トクホルム及ヒクリスチヤナニ於テ開会スル第八回万国東洋学会ニ委員参会ノ儀照会ニ対シ独国留学生井上哲次郎ヲ委員トシテ参会セシムヘキ旨ヲ回答シ且ツ同人ニ該委員ヲ囑托シ手当トシテ金貳百円支給スル旨ヲ通達ス

二月十二日明治二十年十二月制定セル本省物品支給并ニ管理規則ヲ廢シ更ニ本省物品會計規程ヲ制定シ来ル四月ヨリ施行ノ旨ヲ省中各部ニ訓令シ又別ニ本省直轄各部物品會計規程ヲ制定シ来ル四月ヨリ施行スヘキ旨ヲ直轄各部ニ訓令セリ

三月八日理学博士菊池大麓東京学士会院会員ニ当選ス 同日文具支給方ヲ定メテ本省各部ニ訓令シ直轄各部ニ文具支給方ヲ定メ開申スヘキ旨ヲ訓令ス 九日理科大学教授理学博士寺尾壽ニ万国測地学協會委員ヲ命ス 二十一日法律第十一号ヲ以テ水利土功及ヒ学事ニ関スル會議存続ノ件ヲ公布セラル

四月二十六日東京府士族幸田延子ニ音楽修業トシテ滿三箇年米國及ヒ独国留学ヲ命ス 同日明治十九年一月四日内達何指令及ヒ質問等ニシテ一時限リノ事項取扱方ノ件ヲ廢止スル旨府県ニ内訓ス 是月第一高等中学校建築工事及ヒ物理学実験場化学実験場等重ナル工事悉皆落成ス

五月十九日独国官費留学生河本重次郎帰朝ス 二十四日明治二十一年文部省事務報告ヲ上奏ス 二十八日大学院学生坪井正五郎二人類学修業ノタメ滿三箇年英国留学ヲ命ス

六月六日直轄学校授業料入学試験料ニ関スル本年一月ノ訓令ヲ廢止シ当分現在ノ額ヲ最低限トナシ各学校ニ於テ適宜取調文部大臣ノ裁可ヲ經ヘキ旨ヲ訓令ス 十八日米国官費留学生加藤錦

子帰朝ス

七月二日一年志願兵ノ儀ニ付専門学務局長普通学務局長ヲシテ既廢府県立学校取調ノ件ヲ道庁府県ニ通知セシム其要ハ従前設置ノ府県立学校中既ニ廢止シタル学校ノ卒業者ト雖モ該学校ノ旧徵兵令第十一条第十二条第十八条第十九条及ヒ第二十条ニ該当シ居タルモノニシテ其卒業シタル学科程度ノ尋常中学校ト同等以上ナルトキハ一年志願兵タルヲ得ヘキヲ以テ府県立学校ノ右ニ該当スヘキモノト認ムルモノハ其学校名併ニ入学者ノ年齢学力修業ノ年限及ヒ学科程度等ヲ具シ此際文部大臣ノ認定ヲ請フヘク若シ此等学校ノ内嘗テ卒業者ナキモノ若クハ卒業者アリシモ其生徒ハ既ニ徵兵令ニ關係ナキモノハ認定ヲ請フニ及ハサル旨ヲ以テセリ 五日尋常師範学校職員宿直弁当料及ヒ勉勵手当金等二十一年度ヨリ支給セサリシカ自今便宜支給苦カラサル旨普通学務局長ヲシテ府県ニ通牒セシム 二十九日東京学士会院会員西周年齡六十歳ニ滿ソルヲ以テ年金三百円ヲ賜フ 八月日本土木会社ヨリ高等商業学校ニ金五百円ヲ寄附ス 九月二十二日英国官費留学生真野文二帰朝ス 三十日故医科大學学生早川庄次郎紀念ノタメ有志者ヨリノ醸出ニ係ル金二百円ヲ帝國大學ニ獻納シ医科大學第一医院ニ於テ使用スヘキ独国新製ノ消毒竈購求ノ資ニ充テ以テ永ク同人ノ紀念ニ留メラレンコトヲ總代医学士鈴木文太郎理学士北条時敬工学士富山久米吉ヨリ大學ニ出願セシニ依リ同学ニ於テ之ヲ聽許セリ 十月二日普通学務局長服部一三文部大臣秘書官永井久一郎文部書記官青木保二第三回内国勸業博覽會出品取調委員ヲ命ス 九

日明治十五年六月十日同十七年四月五日同十九年七月十日附ヲ以テ學術ノ講談演說ニ関シ訓令セシ次第モ之アリ凡ソ教員學生生徒學術ノ講談演說ヲナス節現在ノ政務ニ関スル事項ヲ可否討論スル等ノ儀之ナキ様一層嚴重取締致スヘキ旨ヲ帝國大學ニ訓令ス 同日明治十五年六月十日付ヲ以テ學校生徒學術演說ニ関シ内訓セシ次第モ之アリ凡ソ教員生徒ニ於テ學術ノ演說講談ヲナス節現在ノ政務ニ関スル事項ヲ可否討論スル等ノ儀之ナキ様一層嚴重取締致スヘキ旨ヲ直轄學校(帝國大學ヲ除ク)ニ訓令ス 同日明治十五年七月三日同十六年一月二十三日同年同月二十四日附ヲ以テ學校生徒ノ學術演說等ニ関シ内訓ノ次第モ之アリ凡ソ學校ノ教員生徒學術ノ講談演說ヲナス節現在ノ政務ニ関スル事項ヲ可否討論スル等ノ儀之ナキ筈ナレトモ尚ホ一層嚴重取締致スヘキ旨ヲ道庁府県ニ訓令ス 十二日閣令第二十六号ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス各官序判任官見習ヲ命スルコトヲ得ル旨ヲ公布セラル 十一月三日独国官費留學生横山又次郎帰朝ス 十三日工學士的場中ヲ採鉱學修業ノタメ独国ニ法學士戸水寛人ヲ法律學修業ノタメ英國ニ孰レモ滿三箇年間留學ヲ命ス 二十日文部省會計局長久保田讓ノ文部省文官普通試験委員長ヲ免シ文部省普通学務局長服部一三ニ同委員長ヲ命シ文部大臣秘書官永井久一郎ニ同委員ヲ命ス 十二月二日府下日本橋区小舟町三丁目亡米倉三郎ノ遺言ニ依リ

父嘉兵衛ヨリ金十円ヲ東京盲啞学校ニ寄附ス 十日 聖上 皇
后宮ノ御写真ヲ高等小学校ニ拝戴致度旨曩ニ宮内大臣ニ照会シ
同大臣ヨリ下付相成旨ノ回答アリ因リテ他ノ模範トモナルヘキ
優等ノ学校ヲ選ヒ当省ヲ経テ申立ツヘキ旨総務局長ヲシテ府県
ニ通知セシム 十七日山勢松韻外四名ヨリ東京盲啞学校ニ金百
四十円三銭ヲ寄附ス 十九日東京府々立高等女学校第一年後期
西ノ組生徒一同ヨリ金五円ヲ東京盲啞学校ニ寄附ス
二十五日文部省第十六年報ノ編纂成ル 二十八日独国官費留學
生田中正平ニ音楽器改良ノ手当トシテ金五百円ヲ交付ス 同日
子爵山尾庸三ヨリ東京盲啞学校ニ金二十五円ヲ寄附ス明治二十
二年中省令ヲ発スル十二訓令ヲ発スル四内務文部兩大臣連署ヲ
以テ訓令ヲ発スル一無号訓令ヲ発スル一告示ヲ発スル二十一事
重要ニ属シ參事官ニ調査セシメタルモノ六百七十五件ニシテ其
公文往復ノ數ハ六万三千六百十三件官報送付ノ數ハ六百八十三
件ナリ又文部省第十六年報ヲ印行スルコト二千三百部仏文仏国
博覽会出品説約ヲ印行スルコト五百部其他府県立学校表本省所
轄学校一覽表等若干種ヲ印行セリ
明治二十三年一月十七日訓令第二号ヲ以テ当省主管明治二十四
年度歳入概算書及ヒ月額金庫区分表共二月二十八日限り其序ヲ
發シ当省へ差出スヘキ旨ヲ道府府県ニ令ス 二十一日所轄学校
會計掛判任官定員及ヒ帝国大学判任官定員改定ノ儀ヲ内訓ス
二十二日近來尋常師範学校ニ於テ火ヲ失スルモノ往々アリ該校
ハ其管理ノ整備注意ノ周到ナルハ諸学校ノ標準タルヲ要スル所
ナルニ右ノ如キコトアルハ不都合ニ付自今一層注意ヲ加ヘ嚴重

ニ取締ルヘク猶ホ右ノ場合アルニ於テハ其責ノ歸スル所ヲ糺シ
相当ノ処分ヲナスヘキ旨ヲ道府府県へ内訓ス 二十八日独国官
費留學生田中正平ニ留學滿期後更ニ一箇年間私費留學ヲ聽許ス
二月十三日米国官費留學生篠田利英ノ願ニヨリ留學期限内ニ於
テ歐洲ノ學事ヲ視察スルコトヲ聽許シ且ツ金百円ヲ學資ニ増付
スル旨ヲ通達ス 十九日訓令第三号ヲ以テ教科用図書檢定手數
料学校教員學力試驗手數料及ヒ同免許狀授与手數料收納ノ事務
ヲ委任シ其取扱ハ二十二年大藏省訓令第六十六号ニ拠リ收入総
報告書ハ当省へ差出スヘキ旨ヲ道府府県ニ令ス 同日學士會院
會員文學博士黒川真頼年齡六十歳ニ滿ツルヲ以テ年金三百円ヲ
賜フ 二十二日第一高等中学校校務分掌規程ヲ定ム 三月九日
海外官費留學生田中稻城歸朝ス 十八日澳國官費留學生村田謙
太郎歸朝ス 二十日独国官費留學生坪井九馬三ヨリ留學期限一
箇年延期ノ願ヲ聽許ス 二十四日古事類苑編纂ノ事業ヲ皇典講
究所ニ委任ス 二十五日英國官費留學生後藤牧太歸朝ノ途次米
國旅行ノ願ヲ聽許シ金二百円ヲ學資ニ増付ス 二十七日官立學
校及ヒ図書館會計法及ヒ會計規則ヲ定メラル

【文部省事務報告 自明治廿二年一月
至同廿二年十一月】 24. 35-5, (1923)